

知っ得！なっ得！

医学情報

プログラム

本当は怖い！心房細動
血液の病気って？

～白血病・悪性リンパ腫の最新治療～

脚を診る

～下肢静脈瘤などのあれこれ～

林 雄介 (循環器内科医長)

吉田 全宏 (血液内科医長)

村上 貴志 (心臓血管外科部長)

日時

2019年

9月7日(土)

14:00-16:00 (開場13:30)

入場無料
定員250名
手話通訳
あり

場所

大阪市立総合医療センター
さくらホール

大阪メトロ谷町線「都島」駅下車、2番出口から西へ徒歩3分
JR環状線「桜ノ宮」駅下車、東出口から北東へ徒歩7分

※申込不要

お問合せ

大阪市立総合医療センター 地域医療連携センター

〒534-0021 大阪市都島区都島本通2-13-22 TEL 06-6929-1221 (代表)



本当は怖い！ 心房細動

循環器内科医長 林 雄介

数ある不整脈の中で、最も多いのが心房細動です。心房細動の発症リスクは加齢とともに増加し、60歳代では100人に1人、80歳以上では100人に3人の割合で心房細動の患者さんがいると言われています。

心房細動の症状は様々で、動悸や息切れといった症状が出る人から、健康診断で偶然にみつかった無症状の方もいます。症状のある方は病院を受診されますが、無症状の方は受診をためらわれ治療の機会を逃してしまう方もおられます。無症状であったとしても放っておいていいというわけではありません。心房細動の患者さんの中には、一定の割合で脳梗塞や心不全を発症する方がいます。

病気を理解し、早期発見・治療が出来るように一緒に取り組んでいきましょう。

脚を診る ～下肢静脈瘤などのあれこれ～

心臓血管外科部長 村上 貴志

心臓血管外科医から、血流の異常から生じる、「脚」の様々な病気についてお話しします。

一見、血流とは関係なさそうに見えて、実は血流の異常が原因のことも。

下肢静脈瘤、片方だけの脚の腫れ、歩くと脚が痛い、下肢の皮膚潰瘍、などなど、動脈・静脈それぞれの異常がもたらす様々な疾患について、お話しします。

血液の病気って？ ～白血病・悪性リンパ腫の最新治療～

血液内科医長 吉田 全宏

怪我をした時や採血の時に見る「血」には、血液細胞と細胞以外の成分（血を固める成分など）が入っています。

血液細胞には、酸素を運ぶ「赤血球」、感染から体を守る「白血球」、怪我をした時にかさぶたを作って出血を止める「血小板」などがあります。

血液内科は、血液細胞や、血液の液体成分の専門科です。血液細胞が関連する疾患としては白血病・悪性リンパ腫などが、血液の液体成分が関連する疾患としては血友病などがあり、ニュースやドラマなどで耳にしたことがあるのではないのでしょうか。

この講座では、白血病や悪性リンパ腫の症状・診断方法や最新の治療法に関して分かりやすく説明いたします。

MEMO

